

令和6年度第1回 士別市地域公共交通活性化協議会 てん末

日時：令和6(2024)年6月26日 10:00～11:00

場所：士別市議会議場

1. 開 会

2. 挨拶 法邑会長

3. 委員紹介

令和6年度士別市地域公共交通活性化協議会 委員名簿【資料1】

- ・欠席：上家委員、酒田委員、宍戸委員、藤田委員、伊藤委員
- ・代理出席：天崎委員代理 佐藤委員、武田委員代理 古田委員
- ・次世代モビリティ推進会議議長である北海道大学大学院工学研究員教授「岸 邦宏」様がオブザーバーとして参加

4. 役員の指名

- ・会長による指名 副会長：大岡委員 監査員：鴻野委員、高橋委員

5. 報告事項

(1) 令和5年度 事業報告および決算報告について【資料2, 3】

- ・決算書支出の部「次世代モビリティ推進会議」の備考に記載されている内訳金額に誤りの指摘あり。決算書の修正を行った。

(2) 令和5年度 会計監査報告について【資料4】

- ・質疑なし、委員了承

(3) 路線バス「朝日線」の減便について【資料5】

- ・朝日線については貨客混載の取組があったことと思うが、減便での影響は。

⇒ヤマト運輸と連携しているが、2年前ほどから取り扱いはなくなった。

現在は日本郵政の取扱いがあり、1日1便の運行となっており支障はない。

- ・朝日線は士別軌道単独路線であると認識しているが、減便等を行う際の協議会としての取扱いを確認したい。

⇒これまでも都度協議はしてきているが、協議会でなかなか特効薬となるような意見等は無かった。

- ・朝日線への市としての支援や運転手不足の影響は。

⇒赤字路線であることから、事業者から補助金の要望も上がってきているところであるが、全体的な路線に対する支援のバランスや財政状況からも朝日線への補助金は難しい現状である。

運転手については貸切も含めて現運転手の人員でなんとか対応できている。これ以上増員することは難しい現状である。

- ・今回の減便に関して地域説明はどのような対応となっているか。地域の足を守るため、地域の利用者への説明や意見を伺う機会を設ける必要があるのではないか。
- ⇒今回の件については事業所が地元新聞や広告を通じて周知する予定である。今後も関係機関と連携・協議を図りながら、地域住民への理解を得れるよう努めていきたい。

6. 協議事項

(1) 令和6年度 事業計画(案)および予算(案)について【資料6, 7】

- ・今回乗降調査の予算が計上されていることから、この部分でしっかりと利用者の声を拾っていただきたい。

7. その他

- ・士別軌道株式会社の貸切事業の状況について聞かせていただきたい。
- ⇒貸切バスの学校でのイベント等の利用については、生徒数の減少もあり、貸切の運行台数も減少してきている。また、部活等の送迎も保護者が担っている場合も増えてきており、利用も減少してきている。
- 観光バスについては徐々に利用が回復してきているが、依然厳しい状況であるため、貸切の運行料を改善しながら対応してきている。

<岸教授からの意見等>

- ・法定協議会での審議・決定された事項については、各委員は尊重しなければならないことになっており、今回の減便についてこの法定協議会で議論されることは非常に重要である。運行事業者の経営状況は厳しいもので、減便等の縮小への判断は理解できるが、一方でそういった現状を把握したうえで、代替でどんな運行ができるか、利用者目線で路線をどのようにしていけばいいかなどの議論をすることは大事である。
- ・次世代モビリティ推進会議においては、協議会の専門部会として「わくわく買い物線」及び「習い事応援タクシー」について協議を行っていく。協議した内容については協議会で最終提案をし決定となることから、協議会での活発な議論をお願いしたい。

8. 閉 会